

マクロ経済学 第7回 解答解説

A1. ○ (📖 VテキストP318)
A2. × (📖 VテキストP319) インフレ率と失業率の間にも負の相関関係があることが示された。
A3. × (📖 VテキストP322) マネタリスト（フリードマン）は、貨幣錯覚が生じるため、短期フィリップス曲線が右下がりになることを示した。
A4. × (📖 VテキストP323～324) マネタリスト（フリードマン）は、長期において貨幣錯覚が解消されると、失業率は自然失業率に一致し、長期フィリップス曲線は垂直になる、つまり、インフレ率と失業率の間に何の関係もないことを示した。
A5. ○ (📖 VテキストP324)
A6. × (📖 VテキストP334) 合理的期待形成仮説では、（完全予見により）短期だろうが長期だろうが、完全雇用が常に成立するため、失業率も常に自然失業率のままである。